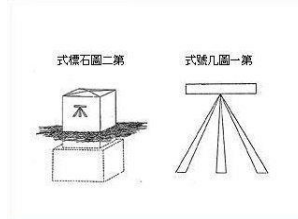


「地図豆」の地図を広げて街歩き

5-1 皇居をひとまわりして地図測量史跡（距離約 10.0km）



皇居を一回りするようにたどり、そして桜も愛でながら、日本の測量と地図の始まりに近づく。

【道順】

00 東京駅→01 和田倉噴水公園→02 二重橋→03 桜田門（几号水準点）→04 日本水準原点→05 半蔵門→06 千鳥が淵→07 九段下→08 靖国神社（几号水準点）→09 田安門（几号水準点）・日本武道館→10 北の丸公園→11 北桔橋から皇居東御苑（工部省三角点、三角点「本丸」、几号水準点、本初子午線、日本で最初の三角点跡）→12 二の丸公園→13 三の丸尚蔵館→14 大手門（几号水準点）→15 東京駅

1. 日本経緯度原点



地図を作るには、地球の大きさと形を知り、測量をして、これを平面に表現する。一方で、地球上の位置は、経度と緯度で管理される。そのとき、経度はグリニッジを、緯度は赤道を零度とする。

日本の測量を行うのに、これを基点とするのではいかにも不便であるから、日本経緯度原点を設置する。経度観測でグリニッジからの経度差を知り、天文測量で緯度を知り測量の基点とする。（東京都港区麻布台 2-2-1）

2. 日本水準原点



同じように、測量や地図作成に必要な高さの基点となる日本水準原点も設置する。標高何メートル、あるいは海拔何メートルと呼ばれるように、高さの基準は海面にある。

明治期東京湾の平均海面を観測した結果をもとにして、日本水準原点の高さはきめられている。目盛板のゼロ位置の高さは関東大震災以降 24.414 メートルであった。平成 23 年 3 月 11 日

に発生した東北地方太平洋沖地震に伴い、24.3900mに変更された。（東京都千代田区永田町 1-1-2 憲政記念館前）

3. 三角点



測量の基点が日本にただ一つでは、これも不便であるし、観測距離が遠くなると測量の誤差も大きくなる。

そこで、位置の測量に必要な「三角点」を日本各地に設置する。1辺と2角を測って位置を求めてする三角測量などをして設置された一等三角点・同補点は、全国に974点ある（平成21年3月31日現在）。1/50,000地形図1枚の中に、概ね1点ある。

4. 水準点



高さの基準となる「水準点」も各地に設置する。

二本の「標尺」をまっすぐに立て、その中間にはレベルと呼ばれる測量器械を置いて行う水準測量を各地でして、主要な国道に沿って2kmごとに約14,700点の水準点が設置されている。

5. 几号水準点



明治初期、工部省・内務省の測量は、英人マクヴィンの指導で実施されたことからか、水準点にはイギリスで現在も使用されている、「不」状の記号を石柱、華表（鳥居）、石垣、欄干などの構造物に刻んだものが使用された。東京府下には150点余が設置され、30点ほどの現存が確認されている。このほかに、東京・塩釜館には129点が設置され、49点（ほかに19点の移設）現存が確認されている。

6. 本初子午線

本初子午線とは、経度零度の子午線をいう。現在は、各国ともロンドンのグリニッジ天文台を通る子午線を零度と決めている。それ以前の「伊能図」では、京都千本三条の改暦所に「中度」と書かれている。その後、明治4年（1871）には、東京溜池葵町三番地（現東京都港区虎ノ門）の工部省の観測課天文台地点が、その後明治15年（1882）には、江戸城旧本丸（現皇居東御苑天守台跡）が本初子午線となった。



+* * * + オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu +* * * +